



MetalsVision

Precious Metals News Sentiment & Macro Analysis

金は調整でも強気構造は崩れない。ドル安・低実質金利・高関心が支える次の一手

Gold | 2026-W10 | 2026-03-02 to 2026-03-08

Author: tas @oliebollen84825 | Supported by ChatGPT

Weekly investor briefing. Data sources include Stooq, CFTC, FRED, and Google Trends.

① 今週の一言要約

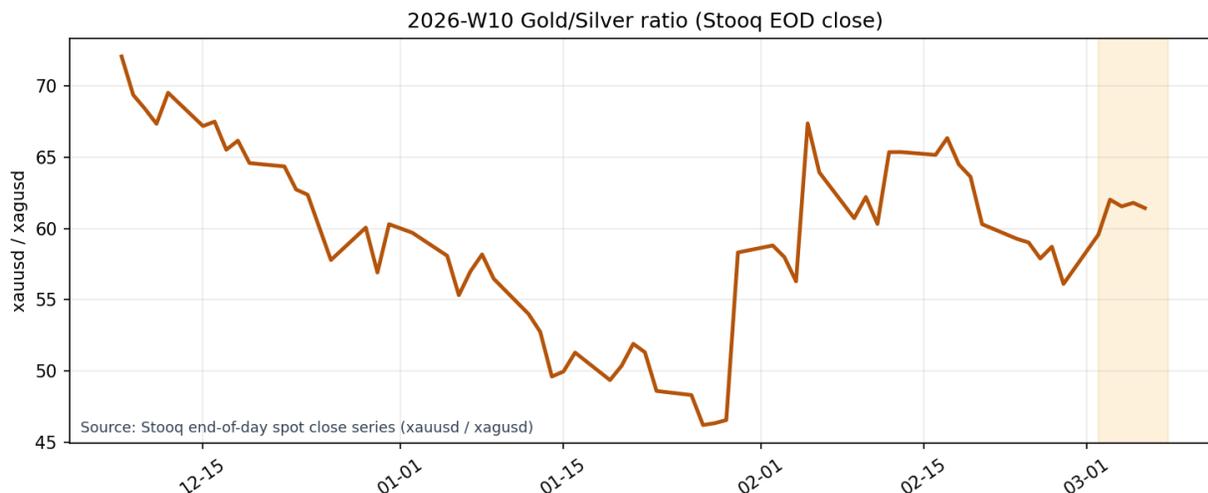
金は週間では下落したが、崩れたというより高値圏での調整色が強い一週間だった。ドル安と低い実質金利はなお追い風で、機関ポジションも過熱には遠い。短期の振れは大きいですが、中期の強気構造はまだ維持されている。

② 価格動向とチャート振り返り

今週の金スポットは Stooq 系列の終値ベースで、2026-03-02 の 5312.56 から 2026-03-06 の 5166.145 まで下落し、週間騰落率は -2.7560% だった。週中高値は 5418.765、安値は 4997.975 で、値幅は 420.79、始値対比では 7.9207% に達した。終値は週初を下回ったものの、安値からはかなり戻しており、一方向に崩れたというより、急変動を伴う調整週と見る方が自然だ。

相場の荒さは引き続き無視できない。20 日移動ボラティリティ（年率）は 31.1957% で、過去 3 年では 94.18 パーセンタイルに位置する。高値圏にいるのに値幅が大きいという状況で、トレンドが消えたというより、強い相場特有の振られやすさが続いている。実際、終値水準そのものは過去 3 年で 99.09 パーセンタイルと依然かなり高い。3 か月騰落率は 23.2847%、1 年では 77.5698% 上昇しており、今週の下げも長期上昇の中の押しとして解釈しやすい。

Gold/Silver Ratio (Stooq EOD close)



Source: Stooq end-of-day spot close series (`xauusd` / `xagusd`).

他資産との相対評価も見ておきたい。金銀比は **61.4230** で、過去 3 年では **4.92** パーセンタイルと低い水準にある。前週比では **9.4775%** 上昇しており、相対的には金の方が銀より強かった。一方、金原油比は **74.8231** で、過去 3 年では **93.12** パーセンタイル。前週比では **4.8192%** 低下したが、それでもなお高水準で、エネルギー価格が上がっても金の評価が大きく崩れていないことを示している。

③ 機関投資家の動き

CFTC COT の最新は 2026-03-03 時点で、マネーマネジャーのネットロングは **97917**、前週比では **1943** 増だった。ロング **123456**、ショート **25539**、建玉 **409789** という組み合わせで、買い越しは小幅ながら積み上がっている。ただし水準感としてはまだ過熱には遠い。ネットポジションは過去 3 年で **27.56** パーセンタイルにとどまり、価格が高値圏にある割に、先物主導の強気ポジションはそこまで膨らんでいない。

この点は重要だ。価格が高いのに投機ポジションが極端ではないということは、ロングの踏み上げだけで作られた脆い相場ではない一方、今後さらに機関投資家が追随する余地も残っているということでもある。短期の株式連動性をみると、QQQ に対する 60 日ベータは **0.5408**、相関は **0.2250** とプラスで、直近はリスク資産の振れにある程度引っ張られやすい。もっとも 252 日ベータは **0.0474** とかなり低く、中長期では依然として分散先として扱われやすい。

④ マクロ要因チェック

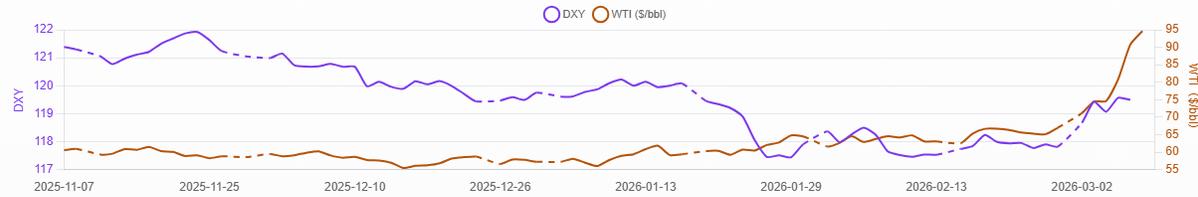
Key Macro Tracker

主要マクロ指標トラッカー



3か月 1年

DXY & WTI (ドル・原油)



金利 (US10Y & 10Y BEI)



VIX (恐怖指数)



追い風スコア



分析済み相関の符号と強さを重み付けた日次スコア (+は追い風、-は逆風)

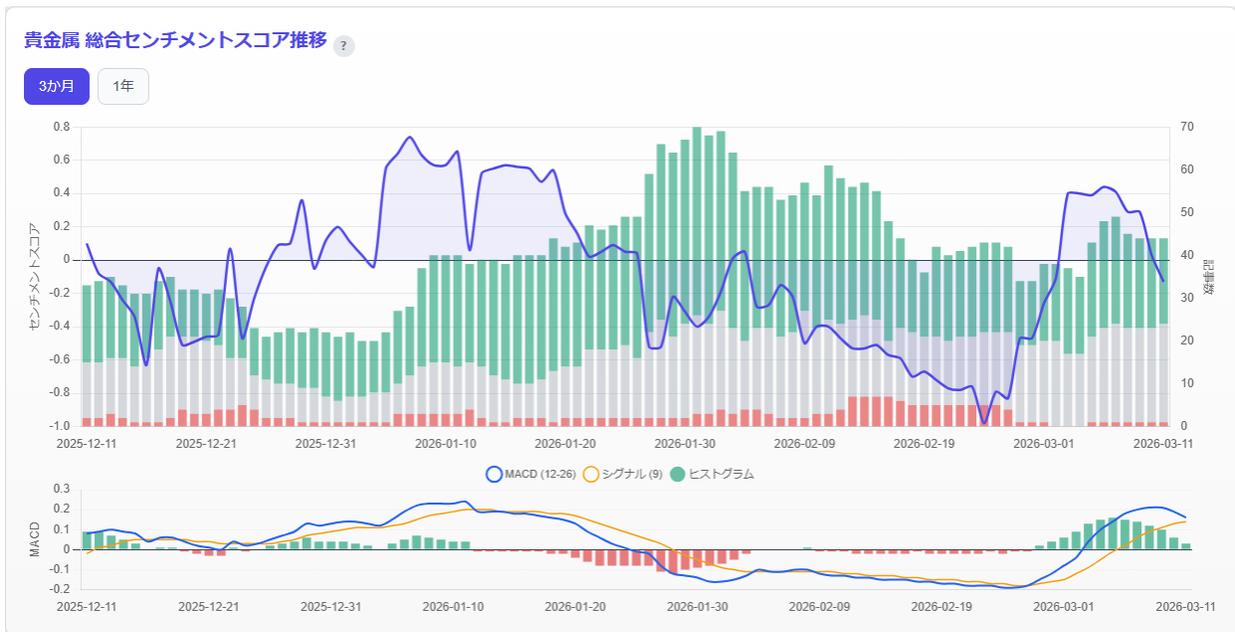
出典: FRED (DXY, DGS10, DCOILWTICO, T10YIE, VIXCLS)

マクロ環境は、全体としてはまだ金に不利ではない。DXY は 117.8223 で、3 か月では 2.4456% 下落している。実質金利 proxy は 1.80% と低めで、3 か月変化でも 5.7592% 低下しており、金の保有コスト面からは追い風が残る。米 10 年名目金利は 4.09% と小幅上昇したが、期待インフレを示す 10 年 BEI も 2.31% まで戻しており、名目金利だけが独歩高という構図ではない。

今週むしろ目立ったのは、VIX の上昇と原油高だ。VIX は 23.75 で、過去 3 年では 94.82 パーセンタイルとかなり高い。不安心理そのものは強く、金にとっての安全資産需要は残っている。一方、WTI は 71.13 ドルまで上がり、3 か月では 20.4776% 上昇した。市場にはインフレ再燃と景気不透明感が同時に走っており、金にとって完全な追い風一本ではなく、支援材料と利益確定圧力がせめぎ合う週だったと整理できる。

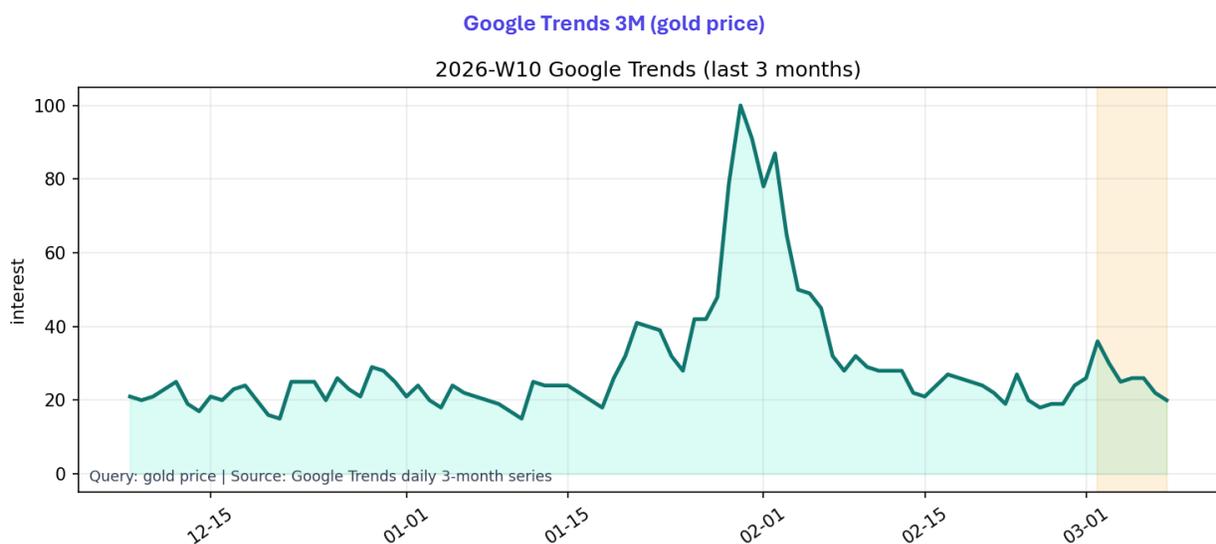
⑤ 需給とセンチメント

Precious Metals Combined Sentiment Score Trend



今週の金関連記事は 39 件。上位タグは金融、企業、投資フロー、政策、地政学で、話題の中心は価格そのものより、資金移動と政策・地政学イベントの解釈だった。個別トピックでは、AI 普及警戒を背景にした米株リスクオフ、トラフィグーラのベネズエラ金買い取り報道、パース造幣局の販売減少、ガーナのロイヤルティ引き上げ問題などが並び、供給・政策・逃避需要が混在した週だった。

ニュースセンチメントスコアはむしろ改善している。主指標に使う補正後センチメントの週平均は 0.486、最新値は 0.55 とプラス圏にあり、前週のようなマイナス圏からは明確に持ち直した。3/3 に 0.58、3/5 に 0.64 まで上昇しており、ニュースフローは価格の週間下落ほど弱くなかった。つまり、値動きは調整でも、記事の中身は依然として強気寄りだったというズレがある。これは短期の価格調整に対して、ファンダメンタル解釈がまだ崩れていないことを示している。



Source: Google Trends daily 3-month series (`gold price`).

個人投資家の関心も底堅い。Google Trends の検索語 `gold price` は、3 か月系列の最新値が 27、1 年系列の最新値が 46 だった。1 年系列は前週比で 48.3871% 上昇しており、水準も過去 3 年で 87.04 パーセントと高い。まだ熱狂的なピークというほどではないが、関心は明らかに高まっている。価格が一服しても検索需要が落ちていない点は、押し目局面で再び資金が入りやすい下地として見ておきたい。

⑥ 今週の洞察と来週の注目ポイント

今週の金を一言で言えば、「高値圏での調整だが、強気材料はまだ残っている」だ。価格は週間で -2.76% 下げた一方、補正後ニュースセンチメントは週平均 0.486、最新値 0.55 とプラス圏を維持した。COT ネットロングも 97917 と小幅増で、過熱ではないが投機筋が完全に逃げたわけでもない。値動きは弱く見えても、周辺データは一斉に崩れていない。

まず、先週の「見るべき三つの点」を振り返る。第一の DXY と実質金利については、今週もドル安と低い実質金利という追い風自体は維持された。にもかかわらず価格は週間で下げており、今回はマクロ追い風だけでは利益確定売りを吸収し切れなかったことになる。つまり、金の上昇構造はまだ壊れていないが、短期ではポジション調整の力も無視できないと確認できた。第二の VIX と金買いの再接続については、VIX が 23.75 まで上がった一方で、恐怖の高まりがそのまま金価格の上昇にはつながらなかった。リスク回避は起きていたが、その受け皿が全面的に金へ集中したわけではなく、今週は「不安の上昇」と「金買い」の間にやや距離があった。第三の Google Trends とニュースセンチメントの組み合わせについては、こちらは比較的しっかりしていた。検索需要は高水準を保ち、補正後センチメントもプラス圏を維持したため、価格が一服しても市場参加者の物語そのものは崩れていない、と読むのが自然だ。

来週に向けては、これら三点に加えて中東情勢、とくにイランと米国の軍事的緊張を明確な観測項目として置くべき局面に入っている。地政学リスクは今週もニュースフローの背景にあったが、仮に米国とイランの対立が追加制裁、限定的な軍事衝突、航路リスク、あるいは原油供給不安という形で一段深まれば、原油高・VIX 上昇・安全資産需要の三つが同時に金へ波及する可能性がある。逆に、緊張緩和や外交的な火消しが進むなら、今週見られたような「マクロ追い風はあるが価格は調整」という構図が続きやすい。

したがって来週見るべき点は四つある。第一に、DXY と実質金利だ。ドル安と実質金利低下が続くなら、今週の下げは押し目として吸収されやすい。第二に、VIX の高さが実際に金買いへ再接続するかどうかだ。株式市場の調整が続き、しかもその背景に地政学不安が重なるなら、安全資産選好が今週以上に前面へ出やすい。第三に、Google Trends とニュースセンチメントの組み合わせである。検索需要が高止まりし、補正後センチメントが 0.5 前後を保つなら、価格が下げても市場参加者の物語はまだ壊れていない。第四に、イラン・米国を巡るニュースの質だ。単なる警戒発言なのか、実務的な制裁強化や軍事行動リスクなのかで、金への波及の強さはかなり変わる。条件付きで言えば、ドル安・低実質金利・高 VIX・中東緊張の四点が同時に残るなら、今

週の調整は再び押し目として解釈されやすい。逆に、センチメントが鈍り、中東リスクも後退するなら、高値圏での調整がもう一段深くなるリスクには注意したい。